

科 目 名	教育実習Ⅱ				
配 当 学 年	4 年	必修・選択	選択	CAP制	対象外
授 業 の 種 類	実習	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	宮嶋 衛次、今井 順一		単位認定責任者	宮嶋 衛次	
実務経験の有無	有				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	教育実習について、学校現場での実践をもとに指導・助言を行う。				
授業科目の概要	2週間の教育実習の意義や実習のための準備と心得を確認し、教育実習期間では多様な教育活動に直面しながら教師として必要な「教科指導力」、「学級指導力」の基礎知識、技能を実践的に学修する。				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の意義を確認し、自己の資質能力を最大限発揮できる。 2. 実習校に関して「学校要覧」やHP（ホームページ）から「教育目標」などを調査研究できる。 3. 実習現場において、自信とプライドをもって3週間の「授業指導」ができる。 4. 学校現場において、生徒とのより良いコミュニケーションを図り、学級指導ができる。 5. 学校現場では、教職員とのコミュニケーションを図ることができる 				
学修成果評価項目（%）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	0 %			
	専門知識	20 %	レポート、プレゼンテーション、取組状況		
	倫理観	25 %	レポート、プレゼンテーション、取組状況		
	主体性	20 %	レポート、プレゼンテーション、取組状況		
	論理性	10 %	レポート、プレゼンテーション		
	国際感覚	0 %			
	協調性	5 %	取組状況		
	創造力	10 %	プレゼンテーション、取組状況		
	責任感	10 %	取組状況		
授業の展開					
1.	教育実習の意義・内容等の指導				
2.	教育実習日誌の書き方				
3.	本学の「教育実習の心得」を確認				
4.	教育実習の心得（1）事前準備				
5.	教育実習の心得（2）学校の規則（服務）				
6.	教育実習の心得（3）実習生のマナー意識				
7.	教育実習の心得（4）授業実習の基本準備				
8.	「学習指導案の作成」(1)				
9.	「学習指導案の作成」(2)				
10.	教育実習反省記録の作成				
11.	教育実習体験発表①（専門教科）				
12.	教育実習体験発表②（学校経営・特別活動）				
13.	教育実習体験発表③（特別支援教育）				
14.	教育実習体験発表④（社会福祉施設）				
15.	教育実習のふり返り（プレゼンテーション）				
授 業 外 学 修 に つ い て	<学校現場実習は、2週間実施する> <授業外学修>				

	<ul style="list-style-type: none"> 教材開発のためのスキル獲得の予習・復習課題を提示するので発表の準備をすること。 授業の確認と定着を図る課題を提示する。 				
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 教育実習日誌、教育実習の手引き（学術図書出版） 高等学校学習指導要領解説（文部科学省） 【理科編】、【数学編】、【総則】、【特別活動編】、【総合的な学習の時間編】 中学校・高等学校学習指導要領（文部科学省） 生徒指導提要（文部科学省） 				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、授業時に適宜指示する 				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	×	×	○	○	○
成績評価の割合	0 %	0 %	25 %	25 %	50 %
成績評価の基準	<p>本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。</p> <p>秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）</p>				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	<p>【プレゼンテーション】</p> <p>教育実習の内容、成果と課題についてプレゼンテーションを行う。</p> <p>【レポート】</p> <p>教育実習の内容、成果と課題についてレポートを課す。</p> <p>【取組状況】</p> <p>実習校での取組状況や教育実習日誌の記入状況を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育実習の前後を通じて「課題・アンケート」を課す。 				

（教育実習Ⅱ）